

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25284120

研究課題名(和文)平泉研究の資料学的再構築

研究課題名(英文)Study on Hiraizumi to reconstruct from historical material side

研究代表者

柳原 敏昭 (YANAGIHARA, Toshiaki)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：30230270

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：本科研がめざしたのは、歴史資料の再検討による、平泉研究の新たな展開のための基盤整備である。研究目的に即し、文献・考古・石造物の三班に分かれて研究を遂行した。

文献班は、中尊寺文書を中心とする同寺所蔵中世史料の悉皆的な調査を実施し、多くの新知見を得た。また、平泉関係の文献史料を集成した。考古班は、経塚を中心とする12世紀代の遺跡の発掘調査を行い、日本最北端の経塚を確認するなどの成果を上げた。また、平泉に関連する北海道・東北地方の遺跡の集成を行った。石造物班は、平泉とその周辺の石造物を調査、資料化し、主要なものについて報告書に掲載した。結果、平泉研究に新しい面を開くことができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of our joint research is to restructure the study of Hiraizumi through research on historical materials. According to this purpose, we approached from three aspects. The main results are as follows.

Research of documents; We examined all historical materials of Hiraizumi Chuson-ji Temple in detail. And we gained a lot of new findings. We assembled historical documents related to Hiraizumi. Research of remains; We excavated some Kyo-zuka (a mound holding the sutra). One of them is found to be the northernmost Kyo-zuka in Japan. We gathered information on the ruins of the 12th century in Hokkaido and Tohoku district. Research of stonework; We conducted field researches of stonework around Hiraizumi and reported them. It supplemented the missing aspects of previous studies.

研究分野：日本中世史

キーワード：平泉 中尊寺文書 経塚 石塔

1. 研究開始当初の背景

平泉(現岩手県平泉町)は、12世紀に東北地方を支配した平泉藤原氏が拠点とした場所であり、京都・博多などに次ぐ都市的発展をとげた。平泉が同時代および後世の東北地方ひいては日本の歴史に与えた影響は大きく、また今なお多くの文化財を有している。

近世以来の長い歴史をもつ平泉研究(以下、12世紀を中心とする平泉と平泉藤原氏にかかわる文献・考古・宗教・美術等を含めた歴史研究を指す)は、長年の蓄積を基として、1988年の岩手県平泉町柳之御所遺跡の本格調査を契機に飛躍的に発展した。議論は、都市論、宗教論、平泉政権論、陶磁器文化論、交通・物流体系論、エミシ・エゾ論など多方面へと展開し、日本列島全体あるいは東アジア世界の中での位置づけを行おうという指向性も強まっている。歴史学界全体へ与えるイムパクトも大きく、平泉研究は武家政権成立史、中世社会成立史を解き明かす要の位置を与えられ、また地域の視座から「日本史」を相対化するものとしても評価されている。研究の深化・発展が、2011年に実現した平泉の世界文化遺産登録を支えたことは、誰しもが認めるところであろう。

研究が進展している一方で、問題点もまた顕在化してきている。たとえば、重要であるにもかかわらず、見解の一致を見ていない論点が多数ある。また、見解の対立が容易に解決されず、ともすれば議論が複雑化し、一部の研究者以外がそれをフォローすることさえ難しくなっている傾向がある。

このような状況を生んでいる要因に、平泉研究を支える素材=歴史資料そのものに対する調査・研究の不足がある。要するに意外に脆弱な研究基盤の上で、議論だけが先行する傾向があるということである。さらに対象となる素材が、文献にとどまらず多種多様であるという特徴もある。そこで我々は、文献・考古・宗教・美術史研究者の協同によって、平泉に関わる歴史資料の可能な限りの集成と調査を行い、研究基盤を再整備することをめざし、共同研究を組織した。

2. 研究の目的

(1) 文献史学を中心として

すでに平泉関係の史料集として、東北大学東北文化研究会編『奥州藤原史料』(吉川弘文館、1959年)、佐々木博康『奥州平泉文書』新訂版(国書刊行会、1985年)、『平泉町史』史料編1(平泉町、1985年)、『青森県史』資料編・古代1・文献史料(青森県、2001年)などがあり、研究の発展に多大な貢献をしてきた。しかし、現在の研究水準に照らして平泉研究に必要な史料を網羅したものはない。また、一層の資料学的研究が求められている重要史料も少なくない。とりわけ中尊寺とその子院が所蔵する古文書に対する精密な調査は必須の課題である。本科研では、第一に、平泉関係史料の集成を行う。第二に、中尊寺

文書を中心とする、中尊寺所蔵史料の調査を実施する。

(2) 考古学を中心として

近年の平泉研究の牽引車は考古学であり、柳之御所遺跡や衣河遺跡群の発掘調査が文献史学を含めた研究の進展を導いてきた。また、平泉的特徴を持つ遺物(「平泉セット」)の同時代的分布から平泉藤原氏の奥羽支配の特質を明らかにした研究に見られるように、東北全域さらには北海道を視野におさめた検討の必要性が浮かび上がっている。これまでも右の範囲における12世紀を中心とする出土遺物の集成は何度かなされているが、調査事例は増加を続けており、現時点で集成を行う必要が生じている。また、すでに調査・報告されている考古遺物のうちに、現在の研究水準で再評価が必要なものが多数含まれている。そのため本科研では、現在の研究水準に立って、12世紀を中心とする北海道・東北地方の考古資料の集成を行う。

12世紀の東北地方では、経塚が多数造成された。また、これまでに北海道で確認された唯一の常滑焼を出土した北海道勇払郡厚真町宇隆1遺跡も経塚である可能性が高い。このように12世紀の北方世界を考古学的に解く鍵の一つが経塚である。本科研では、経塚にターゲットを絞って発掘調査を行い、12世紀の北海道・東北社会の解明の糸口を探る。

現在行われている発掘調査の大部分は開発に伴う事前調査であり、開発件数が少ない地域では資料が得にくく、資料の偏在ともいえる状況が平泉の全体像をとらえづらくしている。この問題を解決する一つの方法が、地表の考古遺物ともいえる石造物を積極的に歴史資料として活用することである。近年、この部面での調査・研究の進展が見られるが、なお現状は、専門家による組織的・本格的調査が求められている段階にある。そこで、本科研では、平泉とその周辺の12世紀を中心とした石造物を網羅的に調査する。

3. 研究の方法

本科研がめざすのは、新たな研究の展開のための基盤整備である。そのため基礎的な調査・研究が中心となる。研究目的に即し、文献、考古、石造物の三研究班に分かれて研究を遂行する。

(1) 文献班

中尊寺文書を中心とする中尊寺所蔵史料を主たる対象として、文字情報の確認を行うとともに、現在の資料学の水準に立ってモノとしての史料の情報を収集する。

「平泉関係文献資料集成」を作成する。

(2) 考古班

平泉周辺、青森県、北海道で経塚(ないしその可能性のある遺跡)の発掘調査を行う。

「平泉関係考古資料集成」を作成する。

(3) 石造物班

平泉を中心に、その周辺部も含め中世前期の石造物を対象として、次を行う。

既存の報告書等から石造物の所在を確認する。

石造物の悉皆的な調査を行う。

調査では、実測図の作成、拓本採取を行う(いわゆる資料化を行う)。

4. 研究成果

まずは、研究班ごとに成果を述べる。

(1)文献班

最大の眼目は、中尊寺が所蔵する古文書(中尊寺文書)の調査・研究であった。寺外の研究者に同文書の調査が許されたのは、約半世紀ぶりのこととなる。初年度は、予備調査を行い、第2年度から本格調査に入った。全約90点について高精細デジタル写真撮影を行うとともに、旧来の翻刻の補訂、法量測定、異筆・追筆の確認等々、考えられる限りの情報を収集し、調書を作成した。著名な中尊寺供養願文2点(いわゆる輔方本と顕家本)、骨寺村絵図2点(いわゆる詳細絵図と簡略絵図)については、特に入念な調査を行い(前者は第3年度、後者は第4年度中心)、原本調査ならではの新知見を数々得ることができた。このほか骨寺絵図紙背写、中尊寺境内朱引絵図、伝教大師御真影、棟札、経蔵落書、梵鐘銘、子院(地蔵院・瑠璃光院)所蔵文書の調査と撮影を行った。これで中尊寺関係の中世史料は聖教類を除きすべて調査・撮影を終えたことになる。成果は、史料集として正式に出版する予定である。

一方、『奥州藤原史料』補遺稿(当初の「平泉関係文献資料集成」を改称)は東北大学文学研究科日本史研究室のホームページに成果の一部を掲載した。

なお、文献班では、最終年度を除く毎年度、調査にご協力いただいた中尊寺に対し、成果を還元するための報告会を開催した。

(2)考古班

考古班の活動は、発掘調査と「平泉関係考古資料集成」の作成の2本立てで行われた。

発掘調査

発掘調査は、12世紀代の経塚ないし経塚の可能性の高い遺跡を対象に行った。発掘した遺跡と成果の概要は以下の通りである。

〔北海道勇払郡厚真町の宇隆1遺跡〕本遺跡では、1959年に常滑壺が発見されており、再調査を行い、遺構が遺存しているかどうかを確認する必要があった。結果、3度の公民館建設によって、遺構は削平され、遺存していないことがわかった。発掘調査報告書を第3年度に刊行した。

〔岩手県奥州市の寺ノ上経塚〕遺跡の形状が明瞭となり、埋納方法の特異性が明らかとなった。発掘調査報告書を刊行した。

〔青森県平内町の白狐塚遺跡〕経塚であることを確認した。しかも従来知られているうちでは最北端となり、大きな成果となった。遺物には、平泉藤原氏が開窯した水沼産焼物も含まれていた。発掘調査報告書を刊行した。

「平泉関係遺跡資料集成」

「平泉関係遺跡資料集成」(当初予定の「平泉関係考古資料集成」を改称)は、北海道、東北各県の研究者に協力を仰ぎ、組織的に作成を進めた。結果、北海道・東北地方の12世紀を中心とする513遺跡を網羅する1000頁を超えるものとなった。最終年度に完成し、DVDの形で多くの研究者に配付した。

(3)石造物班

時代的には12世紀を、空間的には平泉とその周囲を中心に石造物の調査を実施した。主なものは以下の通り。

〔岩手県〕

平泉町：元来は観自在王院址中島にあった板碑(現在は毛越寺所蔵)、観自在王院出土の石造露盤、月館大師堂

一関市：最明寺、炭焼藤太夫婦墓所在の石塔、涌津八幡の鉄五輪塔

〔宮城県〕

栗原市：五輪沢経塚(平泉型宝塔の南限)

〔福島県〕

磐梯町：慧日寺伝徳一廟石塔

玉川村：岩法寺五輪塔

5年間の成果をまとめた報告書『平泉周辺石造物集成』を刊行した。平泉周辺の石造物の一覧表を載せ、主要なものの実測図、拓本を掲載し、近世地誌に記録された古碑・古塚を集成した。また、「平泉の石造物」「平泉周辺の板碑」「平泉以北の板碑」の三つの観点から調査結果を総括した。

(4)シンポジウム等の開催

次に本科研がかかわったシンポジウムについて述べる。

本科研が主催したものとして、総括シンポジウム「平泉研究の最前線 資料学からのアプローチ」(2017年12月9・10日、平泉町武蔵坊)がある。これは5年間の研究成果を総括するもので、各班3本、計9本の報告を準備し、討論を行った。成果と課題を確認するとともに、一般市民にもひろく成果を還元した。参加者は全国に及び約100名であった。

他団体等と共同開催したシンポジウムには以下がある。いずれも本科研メンバーが運営の中心となり、研究成果を報告している。「骨寺村 その成り立ちと展開」(2013年8月4日、一関市博物館)

「アジア社会における日本経塚信仰の成立と展開をめぐる」(2014年12月9日、東北大学)

「鎌倉かわらけ検討会」(2015年2月21日、鎌倉市商工会議所)

「遺跡が語るアイヌ文化の成立」(2015年10月9～11日、北海道厚真町総合福祉センター)

以上、総じて本科研では、平泉研究に関わる基礎的歴史資料を、文献、考古、石造物の三分野から集成・再検討し、新たな展開のための基盤整備を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

〔雑誌論文〕(計 40 件)

入間田宣夫、骨寺村で発掘された土器(かわらけ)片について、一関市博物館研究紀要 21、2018、1-12、査読無

狭川真一、慧日寺伝徳一廟五重石塔の再復原、元興寺文化財研究所研究報告 2017 年度、2018、73-80、査読無

柳原敏昭、アイヌ文化成立期の北海道と平泉・鎌倉 北海道厚真町の遺跡群が投げかけるもの、歴史と地理 日本史の研究 258、2017、51-54、査読無

入間田宣夫、意志関係の歴史学をめざして 平泉研究四〇年のフィールドにて、宮城歴史科学研究 78、2017、17-36、査読無

堀裕、天皇と日宋の仏教文化、ザ・グレイトブッダ・シンポジウム論集 15、2017、85-98、査読無

菅野文夫、鎌倉時代中尊寺略史の試み、岩手大学文化論叢 9、2017、49-62、査読無

入間田宣夫、骨寺村の成立は、いつまで遡るのか 骨寺村絵図研究の過去・現在・未来、一関市博物館研究報告 19、2016、1-16、査読無

誉田慶信、平泉藤原氏と仏会、岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集 18、2016、1-10、査読無

堀裕、東北の神々と仏教、東北の古代史 4、2016、198-232、査読無

菅野文夫、樋爪俊衡と高水寺の走湯権現 - 平泉までの道・平泉からの道 -、岩手大学平泉文化研究センター年報 3、2015、19-26、査読無

山口博之、中世奥羽の霊場、東北の中世史 2、2015、125-134、査読無

〔学会発表〕(計 23 件)

七海雅人、骨寺村絵図(詳細図)、総括シンポジウム平泉研究の最前線 資料学からのアプローチ、2017

堀裕、骨寺村絵図調査報告(簡略絵図)、総括シンポジウム平泉研究の最前線 資料学からのアプローチ、2017

狭川真一、東北地方における中世前期の石造物、総括シンポジウム平泉研究の最前線 資料学からのアプローチ、2017

堀裕、天皇と日宋の仏教文化、第 15 回グレートブッダシンポジウム、2016

柳原敏昭、日本における中世史研究の動向 地域史を中心として、南開大学・東北大学学術交流会、2015

誉田慶信、平泉の仏教と景観、世界遺産保護及び管理国際シンポジウム、2015

七海雅人、鎌倉幕府と南奥の武士団 御家人制の視点から、福島県文化振興財団地域史研究講習会、2015

山口博之、列島の墓制、厚真シンポジウム「遺跡が語るアイヌ文化の成立」、2015

〔図書〕(計 29 件)

狭川真一(編)、平泉周辺石造物集成、平泉研究の資料学的再構築、2018、76

八重樫忠郎(編)、白狐塚遺跡発掘調査報告書、平泉研究の資料学的再構築、2018、13

八重樫忠郎(編)、寺ノ上経塚発掘調査報告書、平泉研究の資料学的再構築、2017、13

入間田宣夫、平泉と仙台藩、大崎八幡宮、2017、70

山口博之、中世奥羽の墓と霊場、高志書院、2017、340

山口博之(編)、平泉関係遺跡集成(DVD)、平泉研究の資料学的再構築、2017、1019

入間田宣夫、藤原秀衡 義経を大將軍として国務せしむべし、ミネルブア書房、2016、321

柳原敏昭(編)、平泉の光芒、吉川弘文館、2015、266

七海雅人、躍動する東北「海道」の武士団、蕃山房、2015、73

齋藤利男、平泉 北方王国の夢、講談社、2014、349

入間田宣夫(監修)、熊谷公男・柳原敏昭(編)、講座東北の歴史 3『境界と自他の認識』、清文堂出版、2013、341

入間田宣夫、平泉の政治と仏教、高志書院、2013、349

〔その他〕

(1)ホームページ
東北大学大学院文学研究科日本史研究室ホームページ(「平泉関係文献資料集成」掲載)

<https://www2.sal.tohoku.ac.jp/nihonshi/index.html>

(2)新聞報道

岩手日報 2017年10月13日朝刊
「平泉影響下の経塚か 青森・平内の白狐塚遺跡」

胆江日日新聞 2016年10月17日朝刊
「「平泉」研究 進展へ成果 寺ノ上遺跡 46年ぶり調査」

6. 研究組織

(1)研究代表者

柳原 敏昭 (YANAGIHARA, Toshiaki)
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：30230270

(2)研究分担者

人間田 宣夫 (IRUMADA, Nobuo)
東北大学・名誉教授
研究者番号：40004048

齊藤 利男 (SAITO, Toshio)
弘前大学・教育学部・教授
研究者番号：90162213
(平成27年度より研究協力者)

誉田 慶信 (HONDA, Yoshinobu)
岩手県立大学・盛岡短期大学部・教授
研究者番号：00310144
(平成28年度より研究協力者)

菅野 文夫 (KANNO, Humio)
岩手大学・教育学部・教授
研究者番号：40186177

佐藤 健治 (SATO, Kenji)
文化庁・文化財調査官
(平成27年度より研究協力者)
研究者番号：50343025

七海 雅人 (NANAMI, Masato)
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：00405888

堀 裕 (HORI, Yutaka)
東北大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：50310769

山口 博之 (YAMAGUCHI, Hiroyuki)
公益財団法人元興寺文化財研究所・研究員
研究者番号：90470278

狭川 真一 (SAGAWA, Shinichi)
公益財団法人元興寺文化財研究所・研究員
研究者番号：30321946

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者

飯村 均 (IIMURA, Hitosi)
乾 哲也 (INUI, Tetsuya)
井上雅孝 (INOUE, Masataka)
及川真紀 (OIKAWA, Maki)
岡陽一郎 (OKA, Youichiro)
菅野成寛 (KANNO, Seikan)
鈴木弘太 (SUZUKI, Kota)
長岡龍作 (NAGAOAKA, Ryusaku)
奈良智法 (NARA, Tomonori)
畠山篤雄 (HATAKEYAMA, Tokuo)
羽柴直人 (HASHIBHA, Naoto)
若松啓文 (WAKAMATSU, Hirohumi)